

「基礎課程演習 - 想像力のトレーニング-」

【1 年次】 美や芸術、自然研究への第 1 歩



聖心女子大学 水島 尚喜

今日的課題とリベラル・アーツ

勤務大学において、2019 年度からの入学者を対象に旧来の「文学部」から「現代教養学部」へと学部名称の変更がなされました。以前の「文学部」には、人文というニュアンスが含まれていましたが、今日の若者たちの感性や語感との齟齬が指摘されていました。さらに現代では、幅広い知識と柔軟な思考力・判断力をもって今日的課題を洞察し、その解決に向けて社会に貢献する「真の教養」を身につけることが必要です。その内容を具現化できる真の「教養人」を育てるリベラル・アーツ教育の深化が求められていました。そのために本学では、専門毎の入学ではなく、最初の 1 年間は「基礎課程」に所属して幅広く学び、2 年次に進級する際に希望の学科・専攻を選ぶことになっています。基礎課程での 1 年間は、さまざまな学問に触れ、自身の興味・関心はどこにあるのか、自身の将来にはどの学問が必要なのかを見極める時間帯として位置付けられています。

1 年次生のための基礎課程演習（ゼミ）

基礎課程科目は、基礎課程に所属する全員が履修する科目で、本学独自のカリキュラムにより設けられています。基礎課程科目として、演習(ゼミ)形式の「基礎課程演習」が開講されています。授業は学生の主体的な研究発表と意見交換を中心に進められ、大学での学習・研究活動に必要な基礎能力や積極的な姿勢を身につけます。尚、基礎課程演習の担当教員は、アカデミッ

ク・アドバイザーとして1年次生の学びをサポートします。授業のこと、将来の進路と学びの関係、学科決定への相談と助言など、種々のアドバイスをを行います。

基礎課程演習の目的

(1)... 大学での学修・研究活動に求められる主体的な姿勢・意欲や積極性を身につける。また、このような資質・能力を1年次から養うことにより、社会への主体的参加の準備とする。

(2)... 大学で効果的に学修を進めるための基盤として、「文章等による表現力」「発表の力」「調査や情報収集の力」を重点的に強化する。

(3) 専任教員の専門性を通して、学問に対する知的・興味関心を深め、視野を広げる。

授業では、担当教員以外の専門スタッフが図書館の利用方法、蔵書の検索、データベースの活用等について「図書館ガイダンス」を実施したり、学内で開催されている企画展示を見学し、それを元に演習内容をワークショップ的に深化発展させることもあります。最後のまとめでは、学内カフェを使用しての談話会などが行われる場合もあります。

「基礎課程演習22」（水島担当分、平成30年度前期内容から）

担当する[基礎課程演習22 想像力のトレーニング]では、上記の経緯や内容を踏まえ、芸術による教育（“ EDUCATION THROUGH ARTS ”）を基盤に、「表現力」、「発表力」の伸長を企図した演習を20年来実践してきました。

昨年度の内容では、純然たる美術品制作は行わず、受講者の在りようを鑑みながら、「思い出のアイテム（もの）を元に、言葉による自己紹介」、「難民に関する展示内容から、イメージする内容を絵に表す」、「一行詩を繋げる」、「自分のお気に入りの曲紹介とそこからのイメージ展開」、「壁画黄金の林檎の前で、サイトスペシフィックな発表を試みる」、「自分の得意な表現形式を用いての表現とその見せ方を工夫する」といった領域横断的なアプローチを用いました。また、そのようなアプローチを、過去、現在において活躍するアーティストの手法を参照しながら、実践演習しました。また、グループ集団による表現内容の構想場面も設定し、個人での表現との相違について自覚化する場面を設けました。

2年次以降の学びに、具体的にどのように発展するかの吟味がさらに必要ですが、受講者からはポジティブ評価が多くありました。教養は、単なる固定化した知識ではなく、実際に活動する中で、相互形成的に磨かれるものです。教員の専門の学問分野の魅力を味わい、学芸に対する知的・興味関心を深めつつ視野を広げ、大学生活を有意義にする基礎能力の伸長に寄与したいと願っています。

以下のシラバス内容も、ご参照ください。



色紙の組み合わせで情報伝達を行う。（最終発表会の局面にて）

授業基本情報

授業科目名(副題)/Course Title	基礎課程演習 2 2 (想像力のトレーニング) /Seminar in Basic Studies
担当者/Instructor	水島 尚喜
単位/Credits	2
開講学期/Semester	前期
曜日時限/Class Period	金 5
対象学年/Eligibility	1年
特記事項/Note	Sophie にて人数制限 (定員: 20)
カリキュラムマップ /Curriculum Map	全学-6

授業概要

授業のテーマ及び到達目標 /Course Theme and Objectives	造形及び言語活動による表現／鑑賞行為を通して、創造的想像力を養い、主体的に思考するための基本的な方法論を身につける。
授業概要 /Course description	大学における学修では、単に覚えた内容を再現するのではなく、常に自ら主体的に思考し、作り出すことが求められる。この演習授業では、創造的に思考するためのアプローチとして、言葉によって思考することと、視覚的なイメージ等によって思考することの共通点や相違点について、具体的な表現活動の場で共同的に考えていく。それらの過程で、基本的な調査・情報収集の方法論についても適宜触れていきたい。
テキスト・参考文献 /Textbooks	【テキスト】 特に定めない。 【参考文献】 「イメージの読み書き」 慶応大学佐藤雅彦研究室 2005年 美術出版社 Yoko Ono "Instruction Paintings" (オノ・ヨーコ 頭の中でくみだてる絵) 1995年 淡交社
授業時間外の学習 (準備学習・復習等) /Out-of-Class Study Time	次回の授業で使用するため素材を集めたりして、日常の中で応用を考える。また、習得した技能や知識を、日常生活の中で適応できるかをイメージする。授業内で触れた展覧会などを鑑賞したり、テレビで放映されるアート関連の番組を視聴したりして、見聞を高める。
その他、履修上の 注意事項や特記事項 /To be noted	楽しみながらの積極的な取り組みを期待します。
評価方法 /Evaluation	課題等への取り組みの状況 (30%)、成果物 (50%)、平常点 (20%) を総合評価する。

授業計画

No.	授業計画 / Class schedule
1	自己紹介：言葉で、他の媒体で
2	世界の見方と情報収集の方法：今和次郎の考現学などを事例に
3	イメージはどのようにして生じるのか：言葉の持つ一般化機能-集約的思考-と絵などの視覚的媒体等による個別化機能-拡散的思考-について
4	「絵」と「文字（言葉）」による伝言ゲーム？連想ゲーム？
5	イメージが生まれる場所：滝口修造と小野洋子
6	イメージが生まれる場所：「児童画」の世界
7	イメージが生まれる場所：岡本光平と斉藤けさ江
8	イメージが生まれる場所：絵本の世界（五味太郎、まどみちお等）
9	イメージが生まれる場所：機械の夢（テオ・ヤンセン、パナマレンコ、八谷和彦）
10	谷川俊太郎の手法：詩と絵（言葉とイメージの往還-「クレーの天使」）
11	路上観察学の手法：ナンセンスの意味（赤瀬川原平の「トマソン物件」）
12	佐藤雅彦の手法：CMと音楽、「ピタゴラスイッチ」
13	未来派の手法：オノマトピアの視覚化
14	プロジェクト：発表会、展覧会をつくる
15	まとめ（全体の振り返り、学内カフェにて）